

2016年5月10日

A班 横田 壮馬

小林正人『「景気循環」研究序説 ―資本主義経済において景気循環は必然的か―』

疑問点・論点

- ✓ 規則的な景気の波が不規則な状態になることはあるのか？
- ✓ 経営者が需要予測を需要変化率 >0 となると予測し、設備投資を行ったが、予測が外れて需要変化率 <0 となってしまった。この時、自分が経営者の立場にいた場合、どのような対策をとるべきか？

B：余剰在庫を安い値段で売りさばき、従業員を削減して人件費を減らしつつ、減産する。

C：景気がいずれ上向きになるので、社員をリストラせず、薄利多売で耐える。

D：生産量を減らし、値段を下げて売るとほかの企業も値下げするから、

ほかの企業よりもインパクトのある広告を出したり、広告面で対策を固めたりしていく。

A：商品を値下げして売る。設備投資の段階で、非正規雇用の人を雇って、あらかじめコストを下げておく。海外市場にも目を向ける。

*Cグループの意見をめぐって

B：景気回復がいつかわからないので、会社がつぶれるよりはリストラすべき。

C：リストラは全体の需要の縮小につながるが、その場しのぎになってしまうため、コストを下げるよりも商品の質で競争していく。

D：リストラは最終手段なので、費用をかけないでいい製品を作ったり、コストを下げて社員のリストラを防いだりして、景気が戻ってくるまで耐えぬく。

A：可能な限りリストラをしないようにし、限界がきたらリストラ休暇を社員にとらせる！